

インターネットライブ交流会実践報告

長野県小諸市立美南ガ丘小学校 中山 晴美
(JOCV 14-1 カンボジア 体育)

1. はじめに

平成14年7月から平成16年3月まで、青年海外協力隊(現職教員派遣制度)として、カンボジアで活動してきた。カンボジアでの生活は、今となってはたった1年9ヶ月というとても短い期間であるが、日々新しい発見があり、泣いたり、笑ったり、怒ったり、悩んだり、感動したり…と、毎日何らかの形で心を動かされるできごとがあった。

何も無いところに、ぽつんと置かれた形でいた私だが、その時、その時…今、自分にできることは何かを考え、それが正しいかどうかは分からないが、自ら行動し、失敗も繰り返しながら何とかやってくることができた。

今でも、そこで出会った人たちや、毎日起こったエピソードなどを懐かしく思い出しては、私にとって貴重な体験をさせていただいた、忘れることのできない、かけがえのない日々だったと思っている。

活動を終え、帰国の時を迎えた…カンボジアは、日本と違い3月が年度末ではないため、年度真っ只中に後ろ髪をひかれる思いで帰ってきた。それでも、帰りの飛行機の中では、日本で待っていてくれる子どもたちに『あんなことも話そう、こんなことも…』と考えていた。

これからは、日本と途上国を『つなぐ』ことが、私たちの役割として大きな位置を占めるのではないかと私なりに考えていた。

2. 帰国後の実態とささやかな試み

4月から再開した日本での学校の生活は、そのリズムに慣れたり、目の前にあるひとつひとつのことをこなしたりすることで時間が過ぎていった。『今の私にできること』でさえ何一つやっていない…と気づいたときは、もう夏休みが目の前に迫った頃だった。

そこから、厳しい現状を理解しつつ、今の私にできることは何かと考えた末、私の中に出てきた答えは、ごく当たり前のことではあるが、『伝える』ことと『行動する』こと。

早速、私はまず目の前にいる子どもたちに『伝える』ことをはじめた。

私が、これまで主に話してきたことは、カンボジアでであった子どもたちのこと。週末によく出かけるアンコールワットには、たくさん子どもたちが生活していて、その子どもたちと会って話したり、遊んだりして過ごす時間が私の楽しみだったこと、また、そこで出会った子どもたちの笑顔に元気をもらって過ごしていたこと、その子どもたちは与えられた環境の中で精一杯生きていること…など、たくさんエピソードを交えて話していた。

もうひとつ、限られた時間の中で伝える方法として、壁新聞の形をとった『カンボジア便り』を発行した。内容は、私の伝えたいことを思いつくままに書いたものだが、張り出すたびに子どもたちは群がるようにして読んでくれる。そこから、話題が広がっていくこともあった。

そういったささやかながら『伝える』ことを続けていく中で、こんなできごとがあった。それは、一人の子どもがこの日記から始まった。

今日、家に帰ってから、インターネットでカンボジアのことについて調べてみました。首都は「プノンペン」ということがわかりました。国境は、プノンペンのことを調べたときに一緒にのっていたのですぐ調べられました。

時間があったので、他のことも調べてみようと思いました。すると、何枚かの写真が出てきました。その写真をいろいろクリックしていくと、笑顔の女の子が出てきました。

「この子、かわいいな」と思い、ページをどんどん送っていくと、その子の足が片方ないことに気づきました。それは、地雷というものが原因だと書いてありました。私はどきどきしながら、その写真をじっと見ていました。「とても悲しいことなのに、どうして笑顔なんだろう」「もし、私だったら笑顔でいられるだろうか」と考えると、またどきどきもどってきました。

前に、先生が話してくれたカンボジアの子どもたちことを思い出しました。この女の子も、片方の足がないことを不幸と思わず、それ以上の幸せを感じて精一杯いきているのかなと思いました。

今日は、その一枚の写真でいろいろなことを考えました。もっとカンボジアのことを知りたいと思いました。

ごく普通の日常生活の中のできごとだが、『何かが伝わっている』と、嬉しく思った瞬間だった。この日記が動機づけとなり、カンボジアについてクラスで詳しく調べてみることになった。

3. インターネットライブ交流会へ

そんな活動を始めた頃、インターネットライブ交流会のお話をいただいた。これは、カンボジアの子どもたちとインターネットを使ってライブで交流をするというものだ。私ひとりの考えではできないので、クラスの子どもたちに相談したところ、すぐに「やりたい」という返事が返ってきた。もし、あの日記がなく、子どもたちのカンボジアへの思いがもっと弱いものであったら、こんな快い返事は返ってこなかったかもしれないと考えながら、子どもたちと共に行動に移すことになった。

この交流会には、あまり具体的ではないが、私なりの思いがあった。カンボジア任期中に現地で実際に先輩隊員の行ったインターネットライブ授業を見せていただいたことがあった。それは、カンボジアの孤児院の子どもたちと、日本の小学校の児童たちとの交流で、お互いに聞きたいことを質問しあったり、歌を交換し合ったり、映像としてそれぞれの教室を見せ合ったりなど、とても充実したものであった。特に、カンボジアの子どもたちの立場で考えると、まだ見たことのない日本の様子や学校、子どもたちのことを知ることができる良い機会になったのではないかと思った。

ただ、日本の学校で行われる学習という立場で見ると、たった一回の交流ではそれを深めることができたのか・・・という疑問があった。もちろん、その交流をきっかけに学習を深めていくことは工夫次第では可能だと思うが、ちょっともったいないなあと思ったのだ。

もし、できることなら、事前事後の学習のことや、それぞれの子どもたちの興味あること、質問によりの確に答えしていくことなどを考えると、長いスタンスでの計画から数回の交流ができれば・・・と思った。

例えば、初めは情報のみからのあまり知らない状態での交流になると思うが、交流によって得たもの、交流によって受けた質問などから、次の交流までに子どもたち自ら課題をみつけて学習を進めることができるのではないかと、さらに、自分たちで作ってきた学習の形を反省し、もう一度挑戦してみる・・・など、深まりのある学習になるのではないかと想像していた。

また、カンボジアの子どもたちにしてみると、その時は、日本の四季とか、学習の内容、流行っている遊びなどに興味があったようだが、日本の子どもたちがその場で質問に答えることができず、先生が答えていたような場面があった。特に四季などは言葉で説明するのは難しいが、数回に渡り、回りの景色の移り変わり（雪がつもっている、桜が咲いている、紅葉・・・など）を直接見てもらうことで、伝わるものもあるのかな・・・とも思っていた。

理想を言えば、そういったカンボジアの子どもたちが知りたいと思っていること（日本では想像もつかないことでもあると思うのですが）を交流によって日本の子どもたちが知り、それを伝える手立てを考え、創り上げて再び伝えることができ、またそれが継続的にできたら素晴らしいと思っていた。

そんな思いを理解していただき、実践に移すことができた。

4. 第一回インターネットライブ交流会

第一回交流会はお互いの簡単な紹介と、それぞれに聞いてみたいことや知りたいことを質問するという内容で進めることにした。

言葉の違いや子どもたちの実態から、質問に対する答えは次回までにまとめるということになり、一回目は質問のみだが、カンボジアについて知り始めた子どもたちからは、たくさんの知りたいことがだされた。

相手は、現地で活動中の隊員が配属されている、バットンバン州のワット・カンベイン小学校。こちらが5年生ということもあり、5・6年生の子どもたちと交流をさせてもらった。

言葉については、相手にも日本語とクメール語の両方分かる隊員がいてくれたこともあり、うまく役割分担して進めることができた。

<第一回 インターネットライブ交流会の流れ>

めあて 相手に聞きたいこと、教えてほしいことを話し方に気をつけて伝えよう
相手からの質問を内容の意味を考えながら聞き聞き取る

展 開

めあての確認

5分

交流会 あいさつ 自己紹介

カンボジア 日本交互に2つずつ計8つずつの質問を交換する

カンボジアの子ども（クメール語）

現地隊員翻訳（クメール語 日本語）

日本の子ども（日本語）
担任翻訳（日本語 クメール語）

あいさつ

40分

感想記入・発表

次回の交流までの活動及び課題の確認

15分

次回はお互いに出された質問について答えを用意しておき、その内容について交流する

<お互いに出された質問>

カンボジア 日本

日本にはどんな珍しいものがありますか？
日本の経済が繁栄しているのはなぜですか？
日本にはどんなスポーツがありますか？
日本では、生徒は何色の制服を着ていますか？
カンボジアに遊びに来たいですか？
あなたの学校は一日に何時間勉強をしますか？
休み時間はどんな遊びをするのが好きですか？
学校が休みの日、どこに遊びに行きますか？

日本 カンボジア

いつもどんな遊びをしていますか？
言われて嬉しい言葉は何ですか？
カンボジアで日本語を話せる人はいますか？
どんな仕事をしている人ですか？
カンボジアの国歌や有名な歌を教えてください
戦争についてどのように思っていますか？
戦争前はどんな国だったか親や家族に
聞いたことがありますか？
今の生活に満足していますか？
日本人の私たちが、カンボジアの人たちの役に
立てることはありますか？

<感想より>

- ・言葉が違う国どうしの交流で伝えたいことが通じるかすごく心配だったけど、カンボジアから「よくわかりました」と言われたときはほっとしてうれしかった。
- ・交流するまで、カンボジアの人は「かわいそう」と勝手に思っていたけど交流してみて印象が全然違った。仲間だと思った。
- ・「カンボジアに遊びに来たいですか」と質問された瞬間、私は心の中で「行きたい！」と叫びました。すごく離れていて会うことができないけど、本当はもっと話したいと思ったからです。
- ・「日本の経済が繁栄しているのはなぜですか」と質問され、はじめは意味さえ分からなかった。そんなことを知っていることに驚いた。日本に興味があるのかな？もっともっと日本のことを伝えたい。そのために自分たちが知らなければならないことがたくさんあるような気がした。
- ・「私たち日本人が、カンボジアの国のためにできることはありますか」と質問した。どんな答えが返ってくるか楽しみだけど、ただ答えを待っているだけでなく、また、カンボジアについていろいろ調べて、次の交流までに自分でも答えを探しておきたいと思った。

<示唆されたこと>

今回の交流を通して、今まで知らなかった国のことについて知ると共に、自分の生活している日本という国について振り返る場面があり、そのよさを改めて知ること、さらに深く、広く人や物、出来事に関わっていけるのではないか。

5. 第二回交流会に向けて

一回目の交流会で、感想を持ち、次の課題を見つけた子どもたちは、質問の答えを見つけると同時に、カンボジアの子どもたちは、なぜこの質問をしたのかと考え始めていた。それを具体的にすることで、よりの確な（相手の求めている）答えが見つかると考えていたのだろう。

質問の答えを見つけることは、相手に目を向けたことから一度自分自身（日本）を振り返ることになる。知らないことについては調査なり、インタビューなりしなければならない。

また、ライブの特性を生かして、言葉だけでは伝わらないものについては、視覚で伝えられるような資料の工夫も、子どもたちのアイデアから生まれてきた。

そんな活動を重ね、何とか自分たちの力で答えを見つけ出していった。

<質問に対する答え> 二回目の交流はまだ行われていないため、現段階での答えである。
カンボジアの子どもたちからの質問

日本には、どんなめずらしいものがありますか。

班で考えた答え	
話す内容	資料
<p>私たちが選んだ日本のめずらしいもの4つを紹介します。 最初は『東京タワー』です。日本の首都東京にあります。高さが333メートルあります。放送用のアンテナとして使われています。観光客もたくさん来ています。 次に、『着物』という服を紹介します。日本に古くからある服です。今は七五三・成人式・結婚式など特別なときに着ます。この写真は私が着たときのものです。 次に、『富士山』を紹介します。富士山は日本で一番高い山です。3776メートルあります。登山客がよくこの山を登ります。冬になると雪がきれいです。 最後に『奈良の大仏』を紹介します。身長は14.5メートルです。奈良県の東大寺にあります。世界三大仏のひとつです。 終わります。</p>	<p>写真 写真 写真 写真</p>

カンボジアの子どもたちからの質問
日本の経済はなぜはんえいしているのですか。

班で考えた答え	
話す内容	資料
<p>昔、日本の人たちは、長い間戦争をしていて食料などが減りこまっていました。 日本の人たちは、このままじゃ食べられない生活になってしまうと思い、畑を作ったり、食料を外国から取り入れたりして工夫し、努力しました。 外国からの考えをお互いに教えあって、それを元に自分たちでも考え、たくさんの物を開発したことで今の生活ができるようになったと私たちは思います。 終わります。</p>	<p>絵</p>

カンボジアの子どもたちからの質問
日本にはどんなスポーツがありますか。

班で考えた答え	
話す内容	資料
<p>日本にはたくさんのスポーツがありますが、その中から二つ選んで紹介します。 一つ目は『すもう』です。皆さんはすもうというスポーツを知っていますか。 すもうは日本の国技です。円い場所から相手を押し出したり、転ばせたりすると勝ちです。すもうをする人たちは、みんな太っていて力があります。 二つ目は『スキー』です。冬にやるスポーツです。板とストックを使って、雪の上をすべるものです。私たちも、冬になるとスキーを楽しみます。 終わります。</p>	<p>写真 絵 写真</p>

カンボジアの子どもたちからの質問
日本の生とは、何色の制服を着ていますか。

班で考えた答え	
話す内容	資料
<p>私たちの学校は制服というものはありません。 だから、どんな色の服を着てきてもいいのです。 でも、運動をするときは、運動着といってみんな同じ服を着ます。季節によって青や白の服があります。 でも、中学校からはちゃんとその学校の制服があります。私たちの行く中学校は黒色の制服です。中学校にも運動着があり、学年ごとに紫・青・黄緑と色が分かれています。 終わります。</p>	<p>実物 実物</p>

カンボジアの子どもたちからの質問

カンボジアに遊びに来たいですか。

班で考えた答え

話す内容	資料
クラスの人全員に聞いてみると、39人中36人がカンボジアに行きたいといいました。理由は『行ったことがないから』『おいしい食べ物がありそう』『いろんな遊びがありそう』『行ってどんな国か知りたい』などがありました。逆に、行きたくないという人が3人いて『行ったことがないから少し不安』という理由でした。終わります。	グラフ

カンボジアの子どもたちからの質問

皆さんの学校は一日に何時間勉強しますか。

班で考えた答え

話す内容	資料
私たちは、8時15分に学校に来て、午後の4時に帰ります。学校は月曜日から金曜日で、曜日ごとに勉強する時間は違います。この表を見てください。5年生の場合、月曜日と水曜日は5時間、火曜日、木曜日、金曜日は6時間勉強します。給食が1時間、そうじは20分です。終わります。	時間割表

カンボジアの子どもたちからの質問

みなさんは、休み時間にどんな遊びをしていますか。

班で考えた答え

話す内容	資料
僕たちは、休み時間にドッジボールをやっています。これは、ボールを使った遊びです。これが、ボールです。年に2・3回の大会があります。これは、僕たちが実際にドッジボールの大会に出たときの写真です。冬は雪が降るので雪合戦という遊びもします。雪の玉を作って投げる遊びです。寒いけど、からだがあたたまる遊びです。雪合戦をやったときの写真です。終わります。	実物 写真 写真

カンボジアの子どもたちからの質問

学校が休みの日、みなさんはどこに遊びに行きますか。

班で考えた答え

話す内容	資料
クラスでアンケートをとり答えをまとめました。『友達の家』『公園』『ゲームセンター』などが多い答えでした。ゲームセンターというのは、ひとつの場所にたくさんのゲームがおいてあるところのことです。終わります。	絵 写真

6. 終わりに

この実践は現在進行中で、成果や反省などをまだきちんとした形でお伝えできない段階である。しかし、今までに行われた交流や学級での取り組みを見てきて、子どもたちにとって貴重な経験をさせていただいていると思う。

今後できるだけ交流を続けて行きたいと思っているが、いつの日かその成果としてお伝えできるよう進めていきたいと思っている。